



2024年4月19日

各位

会社名 株式会社インターアクション  
代表者名 代表取締役社長 木地 伸雄  
(コード番号 7725 東証プライム市場)  
問合せ先 経営企画チーム I R 担当  
電話番号 045-263-9220

## 2024年5月期第3四半期決算説明会 質疑応答（要旨）

当社は、2024年4月12日に2024年5月期第3四半期決算説明会をオンライン配信により実施いたしました。本資料は、同説明会での質疑応答について主な内容をまとめ、公表するものです。なお、理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

---

**質問1**：IoT関連事業について、第2四半期と第3四半期を比較して、売上高における国内外比率の変化について教えて欲しい。また、国内顧客向け光源装置の受注の内、新型光源装置の比率はどの程度なのか教えて欲しい。

**回答1**：第2四半期と第3四半期で国内外の比率は大きく変わっておらず、海外売上高よりも国内売上高の比率の方が高い状況が継続している。また、国内顧客向け光源装置の受注について、第3四半期に大口受注として入った分に関しては、おおよそ9割以上が新型光源装置となっている。海外顧客に関しては投資動向が不透明なものの、需要回復後に備え、確実に収益につながる仕組みを整えている。

---

**質問2**：第3四半期から新型光源装置の売上が計上されていると思うが、第2四半期と比較して売上総利益（全社ベース）はあまり変化がないように見受けられる。新型光源装置は収益性の改善にどの程度寄与しているのか教えて欲しい。

**回答2**：明確な回答は控えるが、従来の光源装置は競争環境の中で利益率が低下傾向にあった。当課題を解決すべく懸命に挑戦した結果生み出された製品が新型光源装置であり、その収益性は従来品と比較して確実に改善している。また、新型光源装置の販売によって製品競争力が向上し、シェア状況も改善したことから、顧客からも評価されていると認識している。

---

質問3：通期連結業績予想の修正について、第4四半期に出荷が進むこととなった要因について教えて欲しい。また、瞳モジュールについては一時的にシェアが下がっている状況ではあるが、光源装置と並んで需要が好調という理解で良いか。

回答3：元々、修正前の通期連結業績予測の時点で第4四半期に売上高が集中する計画ではあったものの、顧客側でのテスト需要が期初想定よりも活発な状況であり、瞳モジュールや新型光源装置を中心として販売が好調に推移する見込みとなったため修正に至った。また、瞳モジュールの需要は期初想定よりも好調であったものの、シェアの状況はさほど変わっていない。そのため、シェアを取り戻すことを次のステップと考えており、様々な取組みを進めている。

---

質問4：通期連結業績予想の上方修正の背景について改めて教えて欲しい。期初には見えていなかった12月の大口受注が要因と考えてよいか。

回答4：12月～2月にいただいた大口受注の内、その一部が期中売上として反映予定となったことが主な要因。

---

質問5：今後の受注の目線について教えて欲しい。特に海外については、中国の市況が回復基調に入っており投資再開の流れになっていると認識しているが、受注として入ってくる時期はいつ頃を想定しているか。また、国内については大口受注が続いたこともあり、来期の受注は落ち着くと考えてよいか。

回答5：海外の受注については、モバイルや車載デバイスの需要復調に伴い、2024年の後半頃に引合いが再開すると予測している。国内の受注については、中長期的な需要はあるものの、多少波はあると想定している。仮に需要が一時的に落ち着く状況になったとしても、中長期的な設備投資需要を見据えて成長の備えを行っていきたいと考えており、国内顧客向け光源装置においては3つの軸（決算説明会資料 p.13 参照）で戦略を立てている。3つの軸の内、新型光源装置については対応済みであるため、次のステップとして改造案件による事業展開を計画している。また、半導体市場の波を受け入れつつも安定的に売上を積み上げられるよう、瞳モジュールを始めとする顧客の設備投資動向に左右されないような事業体制の構築に向けて、様々な取組みを進めている。これらの備えにより、設備投資の需要が更に増加した際にはもう一段階成長出来ると考えている。なお、今期の業績において、仮に海外顧客からの需要が通常通りであれば、過去最高の業績となる可能性があったと認識している。

---

質問6：来期の業績イメージを教えてください。来期において、「新型光源装置の売上比率の増加に伴い収益性が改善」、「瞳モジュールの需要が好調に推移」、「海外顧客からの設備投資需要が正常化」という状況になった場合、IoT 関連事業を中心として増収増益になると期待して良いか。

回答6：現段階では詳細なコメントを控えるが、半導体市場の波によってコントロールできない要素も多々あるため慎重に予想を立てている。一方、弊社としては、企業として量的にも質的にも毎年成長していきたいと考えている。イメージセンサ関連事業以外にも、様々な事業が少しずつ軌道に乗ってきており、小さな結果が出始めている状況である。半導体市場が活発でない時でも確実に成長できる企業を形成することが、自身を含め、社員の誇り・情熱・自信に繋がるため、既存事業の成長及び新規事業の創出に係る取組みを粛々で行い、これからも勝負していきたいと考えている。

---

以上